

文京区基本構想推進区民協議会 意見記入用紙による委員からの意見

委員	主要課題	意見
佐々木 委員	13 総合的な相談・支援体制の強化と子どもの権利擁護	<p>先日の行財政運営の会議にて、文京区のカスタマーハラスメント防止条例についてお話をいただきました。</p> <p>この条例には、いわゆるモンスターペアレンツ対策も含まれており、学校側がスクールロイヤーを活用できる仕組みなど、先生方の労働環境の改善につながる点は非常に喜ばしいことだと感じております。</p> <p>父母連としても、毎年の区との意見交換の場において、先生方の業務負担軽減のための人材増員を継続してお願いしてまいりました。近年では事務要員の配置など、具体的な対応をいただいており、感謝しております。</p> <p>一方で、今回の条例に関して、保護者の立場から懸念点がございます。</p> <p>それは、学校・園・行政組織に対して保護者が「要望や疑問を言いにくい」と感じるような雰囲気が生まれてしまうことです。条例の趣旨が誤って伝わることで、保護者が萎縮し、必要な声を上げづらくなることを危惧しております。</p> <p>実際に父母連や父母会を通じて接する保護者の多くは、「モンスターペアレンツ」と思われないよう非常に気を遣っており、子どもを預けている立場からも、所属施設に対して要望や疑問を伝えるには大きな勇気が必要だと感じています。</p> <p>不信感が募る状況下では、「子どもを人質に取られているような気持ちになる」と表現される方もおり、言い方を悩んでいるうちに問題解決が遅れてしまうケースもあります。</p> <p>また、遠慮して言えなかったことが、数年後に子どもへの影響として現れ、自責の念に駆られる保護者もいらっしゃいます。</p> <p>子どもがすべてを正直に話してくれるとは限らず、親も「気のせいかもしれない」と迷いながら、想像するしかない場面も多々あります。</p> <p>さらに、行政や学校・園の仕組みや慣習は、保護者が日常的に接している企業や組織の感覚とは大きく異なっていると感じられることがあります。</p> <p>保護者同士では「当然可能な範囲の要望」と思って伝えた内容が、無謀な要求として受け取られてしまうこともあります、そのような返答に対して「誤解されているのでは」と感じ、結果的に質問や提案が増えてしまうことがあります。</p> <p>一方では、連絡が増えることで「モンスターペアレント」と誤認されてしまう可能性も否定できません。</p> <p>このような状況を踏まえ、公平に間に入っただける仲介役の存在が必要ではないかと思います。</p> <p>父母連は、区と各保育園の父母会との連絡係としての役割を担っておりますが、要望や疑問を持つ保護者と直接会話する機会は限られています。</p> <p>小学校の小P連や中学校の中P連については詳細は分かりかねますが、園とは違い送り迎えが無くなり保護者同士が顔を合わせることが少ない為、父母連以上に難しい状況にあるのではないかと推察されます。</p> <p>保護者が安心して声を届けられる環境づくりのためにも、条例の運用にあたっては、保護者の立場や心理的なハードルにも配慮した対応をぜひお願ひ申し上げます。</p>
	24 障害者差別の解消と権利の擁護	<p>情報のバリアフリーについての話の中で、Wi-Fiをどこでも無料で使えるようにしてもらいたいという要望が出ていた話を伺いました。</p> <p>科学的な根拠がまだ明確ではないとはいえ、Wi-Fiを含む微弱な電磁波によって体調に影響が出ていると訴える方が一定数いらっしゃることも事実です。特に精神障害をお持ちの方の中には、電磁波による不調を訴えるケースもあると聞いております。</p> <p>このような方々にとって、常時Wi-Fiが稼働している環境は避けることが難しく、結果的に生活の場が制限されてしまう可能性があります。</p> <p>一部の弱者が追い込まれてしまわないよう、すべての人が安心して過ごせる環境づくりのためにも、Wi-Fiの整備にあたっては、電磁波に対する懸念を持つ方々への対応策も併せて検討いただけますよう、お願ひ申し上げます。</p>

29 総合的な自殺対策の推進	<p>4年後の目指す姿として記載のある「誰も自殺に追い込まれることのないよう区民一人ひとりの気づきと見守りを促すとともに」との文言にはとても共感いたします。</p> <p>計画にあるゲートキーパーの人材育成は重要ですが、支援者がいても、悩んでいる方との接点が少なければ「気づく」こと 자체が難しくなるのではないかと思います。</p> <p>近年は地域のつながりが薄れつつあるので、ますます孤立する人が多くなるかもしれません。</p> <p>理想的には、誰もが複数のコミュニティや居場所を持てる地域、あるいは、道ですれ違う人と自然に挨拶を交わせるような文化が根づいた地域が実現されれば、さまざまな角度から人の変化に「気づく」ことができ、精神的にも追い込まれにくく相談しやすい環境につながっていくのではないかと思います。</p> <p>制度や人材の整備とあわせて、地域の関係性づくりにも目を向けていただけるとありがたいです。</p>
46 地域防災力の向上	<p>在宅避難の「必要性」について、もう少し説得力のある情報発信が欲しいと感じています。</p> <p>在宅避難に関しては、「どのような備えが必要か」といった情報はよく目にしますが、「なぜ自宅で避難しなければならないのか」という根本的な理由についての説明は少ないように感じます。</p> <p>私の周囲では、防災対策に関して夫婦間で認識の差があり、「在宅避難の備えは必要か否か」で意見が分かれ、話し合いが平行線のまま進まないというケースをよく耳にします。そこで必要性を感じていない相手に対して家庭内で説得するのは非常に難しいと感じます。</p> <p>必要性が分かりやすかった取り組みの例としては、数年前に近所の町内会が張っていたポスターに「避難所は100人しか入れません」というキャッチコピーのポスターがありました。それを見て、私自身もそれまでの認識が甘かったことを知りました。そしてその後、防災協議会に参加する機会があり、都心部では避難所がすぐに満員となり、災害が「人災」に発展する可能性が高いことを知るに至りました。</p> <p>行政としては、不安を煽るような表現は避けざるを得ないかもしれません、たとえば、避難所の収容人数などで現実を伝え、必要性を感じてもらうことを主とした情報発信やツールがあればと思います。</p>
佐々木委員	<p>災害時の支援において、各種アレルギーや過敏症を持つ方々への配慮もぜひ加えていただきたいです。</p> <p>アレルギーには命に関わるものや、体調を大きく崩す原因となるものもあり、特に近年は子どもを中心</p> <p>にアレルギーの有病率が増加傾向にあります。</p> <p>食品だけでなく、空気環境（ハウスダスト、タバコ、香害）なども対策を進めていただきたいです。</p> <p>空気環境について、例えば喘息の方にとってハ ウスダスト、タバコの煙、香料などは発作の引き金となり得ます。</p> <p>咳き込みによって周囲に不安を与えてしまうこともあり、本人だけでなく周囲の人々にも影響が及ぶ可能性があります。</p> <p>香料については、洗剤・柔軟剤・石鹼・汗拭きシートなど、衛生資材に含まれていることが多く、合成香料入りの製品が使えない方もいらっしゃいます。</p> <p>災害時には多くの人が同じ空間で過ごすことになるため、香料による体調不良を防ぐためにも、無香料の製品を優先的に備蓄・配布していただけると安心です。</p> <p>また、衛生資材としてよく見かける「噴射式」のアルコール消毒についても懸念があります。</p> <p>大人にとって使いやすい高さに設置された噴射式消毒器が、子どもにとっては目の高さに位置してしまい、目に入る危険性があると感じています。</p> <p>さらに、噴射式は周囲にも飛散するため、消毒液に対して体質的に使用できない方が避けにくい状況になってしまいます。</p> <p>細かい点かもしれませんが、アルコール消毒に限らず、掃除用品など薬品系の資材は、多少使い勝手が劣っても、噴射式ではないタイプの方が多くの人にとて安全だと思います。</p> <p>特に災害時の避難所などでは、多様な体質・事情を持つ方々が同じ空間で過ごすことになるため、こうした配慮は欠かせないと思います</p>

高岡 委員	24 障害者差別の 解消と権利の擁護	<ul style="list-style-type: none"> 心と情報バリアフリー推進事業は、心のバリアフリーは障害者への配慮と障害は社会的障壁に起因することの理解が中心で、情報バリアフリーはすべての障害者が情報と意思疎通を図れるようになります。 文京区が今年から始めた遠隔手話サービスは、区民が区の行政サービスを利用する上で大きな改善がありました。このサービスは庁舎内の開所時間に限定されてしまいますが、外からの問い合わせにも対応できるよう、手話リンク、ヨメテルの利用に対応して欲しい。 <p>文京区議会では、リアルタイム字幕モニター、ヒアリングループの設置、手話通訳の配置と聴覚障害者の参加する環境が大きく改善されました。この環境を企画課の文京区基本構想推進区民協議会、都市計画課の文京区バリアフリー基本構想推進協議会で活用した審議が行われたことは情報バリアフリーの大きな前進です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一方、11月3日の小石川図書館利用者懇談会で、聴覚に障害を持つ区民の参加について、当初の対応が不十分でしたが障害福祉課と図書館側の配慮で参加が可能となりました。 区内の各施設で、ユニバーサルデザインの対応について、利用者から意見を聞き、協議する場を設けて欲しいと思います。そのプロセスが重要です。
	37 図書館機能の 向上	<ul style="list-style-type: none"> 11月3日の小石川図書館利用者懇談会で、区民から求められる図書館の機能が知識・情報の提供だけでなく、学習の場の提供、交流の場と変化してきたことが報告されていました。図書館の機能はその周辺地域だけではなく、文京区民全体にとっても重要なものになります。この観点が総合戦略課題として全ての図書館に共通であって欲しい。 図書館の機能の重要な部分の一つとして、ユニバーサルデザインがあります。施設の移動等の配慮だけでなく、情報・コミュニケーション環境の配慮が必要です。この内容について、当事者、関係者の意見をよく吸い上げて欲しい。 竹早公園と小石川図書館の一体的整備において、ワークショップを開いたことは重要です。「中間のまとめ」案の取りまとめの経過に関わらず、見直しも含めて検討が必要でないか。小石川図書館の機能の充実については、「落とし所」を用意してから話し合うのではなく、区民の声をよく聞く中から見していくプロセスが重要です。 居住地の根津図書館は非常に狭隘であり、ふれあい館自体が築28年を経過しています。近隣の土地の獲得も含めて、機動的な改築に乗り出してほしい。
	41 誰もが暮らし やすいまちのバリ アフリー化の推進	<ul style="list-style-type: none"> バリアフリー基本構想推進協議会で、次期バリアフリー基本構想推進計画素案が策定されようとしています。これまでの取り組みで、地域別懇談会やアンケート等を通じて、改善点や今後の課題等を把握されて良かったと思います。 <p>素案でも、情報・コミュニケーションのバリアフリーについても4本柱の三番目に位置付けられています。障害者、高齢者、乳幼児帯同者等の移動等の配慮の他に、当事者の自立支援機器の利用を配慮、特に情報・コミュニケーション機器の利用環境の整備の両方が必要だと思います。文京区がこの面でも先進モデルになるように、頑張ってほしい。</p>
	47 防災機能の強 化 48 災害時の要配 慮者への支援	<ul style="list-style-type: none"> 11月11日、Jアラートの試験放送があったが、聴者でも内容が聞き取れない方が多い。特に荒天時などは聞こえない。文京区防災アプリにはその内容が文字で配信される。このことを知らない区民も多い。 また、手話を使う方には文字による情報提供、スマホの利用、アプリの操作も含めて理解が困難です。手話施策推進法でも、災害時、緊急時の情報の提供には手話による提供が掲げられています。対策を講じて欲しい。